

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度第1回東浦町部活動の地域移行推進協議会	
開 催 日 時	令和4年11月29日(火) 午後3時から午後4時30分まで	
開 催 場 所	はなのき会館 研修室	
出 席 者	委 員	二宮 立美 氏 (会長)、平野 俊之 氏 (副会長)、 坂部 博幸 氏、田川 弘樹 氏、岩尾 由起男 氏、 新美 佳三 氏、梶山 博史 氏、3名欠席
	事務局	庄子教育長、石川教育部長、畔上学校教育課長、松尾 学校教育課主幹兼指導主事、瀬之口学校教育課統括 課長補佐兼指導主事、佐東生涯学習課長、杉浦スポー ツ課長、永井スポーツ課長統括課長補佐、塚田スポー ツ課主任
議 題 (公開又は非公開の別)	1 学校部活動の現状と今後について (公開) 2 協議会のスケジュールについて (公開)	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)		
傍聴者の数	1名	
審 議 内 容 (概 要)	委員の出席及び会議の成立を確認  傍聴者の確認及び傍聴の許可  議題の審議内容等は、別紙のとおり	
備 考		

◆事務局

委嘱書配布

◆あいさつ

教育長

11月に役場でインディアカのねんりんピックで3位になられた方の表彰があったが、人生を豊かに生きてられるなど感じた。ある意味、これが我々の目指すゴールではないかと思われる。地域移行の方向性について、単に学校部活動を地域が受け持つだけでなく、生涯スポーツ・生涯学習の観点から子どもたちがどのように活動していくか広い目で大人が考える時期に来ている。その証拠に、本日も様々な立場の方にご参加いただいている。まずは東浦町の中学生を中心に、将来どういう生き方、スポーツ・文化と関わっていける能力を育てていくかという根本をご協議いただけるとありがたい。

審議内容

役員（会長・副会長）の選出について

会長 二宮 立美 氏

副会長 平野 俊之 氏

・以降は、委員長が議事を取回す。

◇委員長あいさつ

私は、就職したころ、体育庁ができそうだという話を聞いて、ちゃんと資格を取らなければいけないと思い、子どもたちを指導する取得した。これを取得して、さて活動しようと思ったが、しばらく体育庁ができずにいた。そして、1990年ごろ、子どもだけではなくスポーツ指導者を指導できるようにした方がよいと勧めがあり、また1年かけて資格を取得した。その後、しばらくして、総合型地域スポーツクラブを設立するという話があり、理事長として設立に関わってきた。40年前から、地域で子どもたちを育てていくという話があったが、なかなか実現できていなかった。我々は今、それくらい困難な課題に立ち向かっているのだということを分かっていたうえで、この協議会が有意義なものになることを願って、皆様にご協力をお願いしたい。

1 議題（1）学校部活動の現状と今後について

事務局・・・ ①なぜ部活動を改革するのか。

一点目は少子化への対応。公立中学校の生徒数は、1986年がピークで、およそ589万人であったが、去年はおよそ296万人とほぼ半分となっている。出生率の低下で、今後も年々減っていく見込み。

そのため、少子化の中でも、将来にわたり子どもたちが運動や文化的活動に継続して親しめる機会を確保する必要がある。

2点目は、教員の負担軽減。経験のない部活動指導などが大きな負担となっている。休日の学校部活動を廃止し、地域での活動とすることで、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質を向上していくものである。

事務局・・・ ②国・県の方針について

国は令和5年度から令和7年度までを地域移行に向けた改革集中期間とし、国が示すガイドラインを基に、具体的な取組やスケジュール等を定めた推進計画を県や市町村へ作成するよう求めている。県の推進計画の概要や今後のスケジュールは、12月15日に開催の部活動の地域移行に向けた説明会及び意見交換会で示される予定である。

また、資料8でお示しした、新たな国のガイドライン案が示され、12月16日まで意見募集が行われている。

事務局・・・ ③町の現状について

6月に検討会を立ち上げ、11月までに5回会議を行い、町の方針案やアンケート案を検討してきた。その検討会では、令和5年度9月から休日の学校部活動は廃止する予定、休日の活動機会を確保するために、地域の指導者等が指導を行う「町営クラブ（仮称）」を設立し、準備が整ったものから順次スタートしていきたいと意見がまとまった。また、9月に町内小学5・6年生、中学1年生及びその保護者へ部活動の地域移行についてのアンケートを実施した。

地域移行実施の問題点として、国のモデルケースで先行して実施している市町村からは、受け皿となる指導者、団体・場所の不足、活動の責任の所在、また、指導者への謝金、運営費の費用がかかることなどの問題が挙げられる。

本町の今後の課題については、指導者人材バンクの活用等による指導者確保や活動場所の確保・調整、活動における事故補償のための保険加入、活動費用に関する制度づくりや財源確保などが考えられる。

これらの課題に対し、現段階では不明な点も多いため、国や県等の動きを注視しながら取り組んでいく。

事務局・・・ ④アンケート実施結果について

まず、資料5「児童・生徒用アンケート」の結果については、回答者の所属、性別などは問（1）～（4）のとおりである。次に、問（5）「今後、どのような活動をやってみたいと思いますか。」については、多かったものから順に、運動系活動ではバスケットボール、バドミントン、卓球、文化系活動では、コンピュータ、美術、家庭科となっていた。バドミントンなど、現在の学校部活動にはない活動が上位に入ってきたのは、意外な結果であった。問（6）「町営クラブが始まったら、参加したいですか。」では、54.2%と約半数が参加の意思を示していた。約

半数という結果は、想定された通りの結果であった。問（7）「町営クラブに参加したい理由は何ですか。」については、「楽しそうだから」「友達と一緒に活動できるから」が多く、「大会やコンクールに参加したいから」という項目は2番目に少ない結果となった。この結果については、この後の結果とも絡めて考察をする。問（8）「町営クラブに参加しない（できない）理由は何ですか。」については、「クラブ以外のこと（勉強や趣味など）に時間を使いたいから」が51.8%と最も多くなり、町営クラブに対するマイナスなイメージをもっているというよりも、別の目標をもっている子が多いということを読み取ることができた。これは、個性に合わせた多様な活動ができるようにするという改革の意図とも合致していると考えられる。問（9）「町営クラブに期待することは何ですか。」では、「上手になれること」「活動が楽しめること」が上位となり、ここでも、「たくさん大会やコンクールに参加できること」「大会やコンクールで勝てること」は、低い結果となった。問（7）の結果と合わせても、児童・生徒にとっては「楽しめること」が大切であり、「上手になれること」も大切であるが、それが直接大会やコンクールに参加したいということではなく、自分の成長を感じられる場の設定をすることが重要になると読み取ることができた。最後に、自由記述については、177件の回答があった。多くが町営クラブに対する質問であったが、これだけ多くの回答があったことから、町営クラブに対して興味・関心をもってくれている児童・生徒が多いことが読み取れ、うれしく思っている。

次に、保護者用アンケート結果については、回答者の所属、性別などは問（1）～（4）のとおりである。問（5）「学校部活動の意義として当てはまるものをお答えください。」では、「チームワークや協調性を身につけることができる」が最も多くなった。次いで「体力や技術を身につけることができる」が多く、児童・生徒の価値観とも一致している。また、「大会等でよい成績を得ることができる」が最も少ない結果となっており、これも児童・生徒のアンケート結果の傾向と一致している。問（6）の「町営クラブが始まったら、お子さんを参加させたいですか。」では、72.9%の保護者が参加させたいと回答しており、児童・生徒の54.2%よりも高い数字となっている。町営クラブの運営体制を整えば、体力や技術を身につける機会として前向きに参加させたいと考えている保護者が多いことが分かった。問（7）「町営クラブに参加させたい理由は何ですか。」では、問5と同様「体力や技術を向上させたいから」が最も多く、「大会やコンクールに参加させたいから」「大会やコンクールで勝てるようにしたいから」は、児童・生徒と同様に低い結果となった。問（8）「町営クラブに参加しない（できない）理由は何ですか。」も「クラブ以外のこと（勉強や趣味など）に時間を使わせたいから」が

35.9%、「別の団体で活動しているから」が24.6%と上位を占め、児童・生徒と同様の結果であった。問（9）「町営クラブを3中学校合同で地域の指導者が行うことで期待できることを答えてください。」では、「交友範囲を広げることができる」が最も多くなり、児童・生徒が他校の生徒と活動することにあまり価値を置いていなかった結果と反対になったが、問（5）で、保護者はチームワークや協調性が身につくことを期待していることから、3中学校合同で活動を行うことで、従来の部活動以上に保護者が求める資質・能力を児童・生徒に身に付けさせることができる可能性を感じた。問（10）「町営クラブを3中学校合同で地域の指導者が行うことで心配なことがあれば答えてください。」では、保護者が最も懸念しているのは移動に関して、そしてもう一つは学校の顧問と地域の指導者の指導方針が一致するかという点であった。学校の先生方は、今の方針でいけば今後平日のみの指導となるため、勝ち負けというよりも、生涯スポーツの考えで指導をしていくことになる。地域の指導者の方にも、それも踏まえたくて、指導していただく必要性があると感じている。問（11）～（13）は、学校部活動、地域のクラブチームで年間に保護者が負担している総費用負担額と地域クラブチームの月謝の分布図と平均である。今の方針では、町営クラブは参加料を無料としているが、ボール等の消耗品費や保険料は受益者負担としていることから、実際に徴収する費用を決めるときなどの参考とするため、調査した。最後に、自由記述については101件の回答があった。大きく分類すると、「大会や活動量の確保について」「指導者の確保や質について」「送迎について」が主な内容であった。中でも、「大会やコンクールへの参加を今までと同程度確保してほしい」という記述が最も多かった。もちろん、貴重な意見として今後も参考にしていくが、アンケート結果の考察で述べたとおり、大会やコンクールへの参加に対して強い思いをもっている回答者の絶対数は、全体で見るとかなり少ないため、自由記述に書かれていることだけが保護者の総意ではないという感覚をもちながら、少しでも多くの方に賛同していただける町営クラブ運営を考えていく必要がある。

次に、資料6・7はそれぞれ、小学生のみ、中学生のみのアンケート結果をまとめたものである。分けてまとめたことで、全体の考察と別の見解が見えてきた部分についてのみ説明することとする。問（5）「今後、どのような活動をやってみたいと思いますか。」で人気の高かった、バスケットボール、コンピュータだが、特に小学生からの需要が多いことが分かった。現在、総合型地域スポーツクラブでもバスケットボールクラブへの参加者が非常に増えていると聞いている。また、コロナ禍で学校での様々な活動がタブレット端末を介して行われるようになったことがコンピュータの

人気につながっているのだと考える。中学生では、コンピュータと同程度吹奏楽の需要があることも分かった。また、問（9）「町営クラブに期待することは何ですか。」については、全体では「楽しめること」「上手になれること」などが上位だったが、「上手になれること」は小学生、「楽しめること」は中学生でそれぞれ最も多くなっている。予想では、中学生の方が体力や技術の習得への思いが強いのではないかと考えていたが、逆の結果となった。これは、中学生の方が今の国の動きや方針等を正確に理解し、すでに考え方の方向転換をしている子が多いのではないかと考えた。

アンケート結果については以上。今後も方針を検討していくときには常にアンケートに寄り添いながら進めていきたいと考えるので、説明できなかった部分も含め、細かいところまでご一読いただくことをお願いしたい。

## 質疑

委員・・・ 町内の中学校では西部中学校の近くに、阿久比町がある。また、クラブチームのような活動形態もある。今回の移行が東浦町のみを対象にしたものか、または他の地域も含めた活動を目指す方針としているのか。

事務局・・・ 西部中学校の例にあるとおり部活動の人数も集まらない現状もあるが、今のところでは東浦町内での活動と考えている。ただし、今後、人口が減っていくような状況であれば東浦町だけでは活動できないことも想定している。東浦町だけに固執するわけではなく、地域という視点は国が示しているので念頭に置きながら、柔軟に考えていきたいと思っている。

委員・・・ 部活動は今までどおり続くのか。また、部活動がなくなっている状況について、具体的にサッカーと野球が例に出たが具体的にどんな状況であるか。

事務局・・・ 部活動については、令和5年から7年度までの改革の集中期間は、休日の改革を進めるため、平日は学校で行い、土日のみ地域で行う考えである。ただし、国の方針では、平日の移行も可能であれば進める方向性が示されている。東浦町では令和7年度までに休日の部分を移行させ、その後平日も地域に移行する想定している。休日での部活動における活動が完成すれば、そこに委託する可能性を考えている。

部活動の廃部の例では、東浦中学校でソフトボール部が廃部になった。比較的、生徒の人数の多い東浦中学校でも起きている。

中学校生徒を人口推計すると令和4年度の1,429人から16年度では1,170人になり、18.1%の減になる見込みのため、特にチーム競技が廃部

になる想定をしている。

副会長・・・ 塾や専門の指導者によるものだと、費用もかかると思う。今までは学校のためとかモチベーションがあったのが、段々成り立たなくなってくる。今の活動がそのまま続けられるのかの心配に対して対処もしないといけない。逆に今までできなかったことができるかもわからない。この会議で疑問として出たことを解決していかないといけないのかなと思う。

委員・・・ アンケートによると町営クラブに「参加しない(できない)」という回答が半分以上見受けられる。何かの活動を学校でも他でもやらない子どもが増えるということに不安を感じる。

委員・・・ クラブチームの運営に携わっていて、アンケート結果を見ると意見のギャップがあると思われる。強くなりたい、楽しみたいが大会となると出場を考えてしまうという意見もあると思う。

現場の意見としては、部活動の地域移行は良いのだが、平日の練習も含めて活動できる指導者の育成と確保という課題がある。会社の定年年齢も延びているので、全て指導者も含めてクラブチームに移行というのは課題であると思う。町営クラブが無料になっても、指導者に係る費用や保険料等は発生すると思うし、参加する子どもが0人だった場合の状況も考慮するとその点を行政がケアする必要があると思う。

会長・・・ 人材、物品、環境、費用という点において、既存の部活動やクラブチームは既に培ったシステムがある。それに代わる新しいシステムを構築することは簡単ではないと考えられるが、新しいシステムを構築することがこの会議の使命だと思う。

活動場所は主に学校体育館と運動場になるとと思われる。会合等を行う事務室も作る必要があると思う。

委員・・・ アンケートについて、子どもに意見を聞いたら「書いたことと実際にすることは別。」という声を聞いた。

今までは、中学校に入学すると部活動に入ることが当たり前だったが、部活動に入らなくてもいい選択肢が増え自分で考えるようになると思う。ただ、何をして良いかわからない子どももいるので教職員がアドバイスやフォローをすることになると思う。

委員・・・ 部活動はきっかけがないと続かない。小学校での活動経験が中学校の部

活動に影響すると思う。

吹奏楽を 30 人程度で行っていたがコロナウィルスの影響で活動を一旦休止し、再開したら 10 人も集まらなくなり活動停止した。

楽器を使わない状態になっている。手入れ等をするにも高額なものであることから民間サークルではできないので検討してほしい。

教職員の負担減とは別方向になるが、子どもたちと密接な関係になることも含めむしろ学校の先生を増員することがこの会議の内容において最速の解決策ではないかと思う。そこに指導員やボランティアが関われる形がいいのではないかと思う。

委員・・・ 定数は増えない傾向にある。加配はあっても教職員の負担は減にならない状態である。教職員は部活動の指導の研修をほぼ受けていない。中学校に赴任すると、行ったことのない部活動を受け持つことがある。資格を持っている指導者が教えてくれた方が子どもたちにとっては適切かもしれないと思う。

会長・・・ 指導というのは、3～4年かけて、ある程度でも指導できるようになる。物品や環境について、指導に来ていただく方が着替えをする場所もないようなことはあってはならないので検討しなくてはならない。

現時点での構想では、人材面では土日のうちの1回活動していただく。活動場所としては中学校3校の体育館、音楽室を活用していく。活用のため具体的な検討をしていく。

平日の活動については、土日の活動と違う活動でも良いと考えている。子どもたちに選ぶ能力をつけさせたい。当初は町営クラブに入らないことも考えられるが、刺激を与えて少しでも活動していけたらと思う。

意見として、中学校のスポーツ少年団を作ったらどうかという意見もある。

委員・・・ 中学生でもスポーツ少年団に加入できる。

学校の先生と協力して中学生が練習に来ることがある。部活やテストの期間は来なくても良いとしている。これから加入や活動について検討が必要な場合は、各団で決定していけば良いと思う。

## 2 協議会のスケジュールについて

今年度、協議会を3回予定しており、2回目及び3回目の推進協議会で、地域の受け皿の確保、町スポーツ協会や町文化協会などの団体、企業や近隣の大学等との連携ができないか等について協議・検討し、協議会の意見をとりまとめたと考えている。来年度については、令和5年9月の町営クラブ実施に向けた協議を考えている。



その他、連絡・依頼事項等

・今後の協議会開催日時調整について

今年度中にあと2回協議会を開催する予定でいる。そこで、次回の協議会を設定するために、委員の皆様へ配付させていただいた協議会開催日時調整調査用紙に、ご都合のつきやすい時間帯を記入して提出いただきたい。なお、手書きでもQRコードからでも提出することができる。

閉会

午後4時45分

会議録作成者 東浦町部活動の地域移行推進協議会事務局